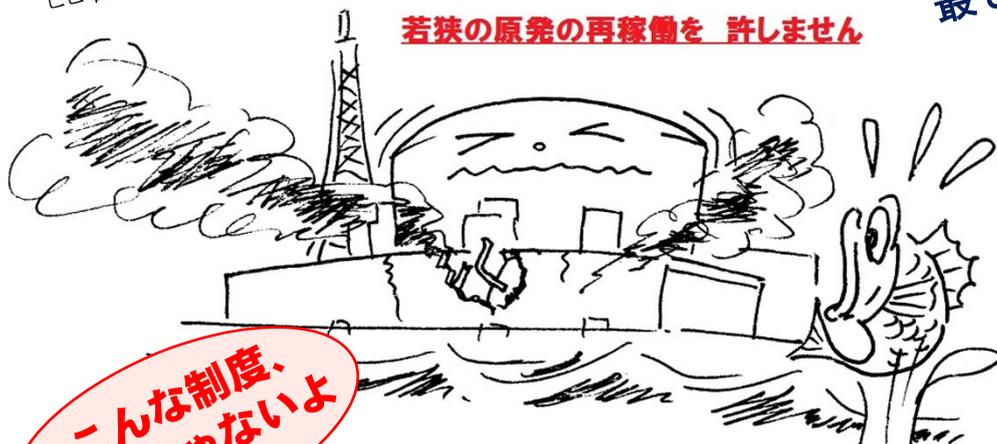


ひび割れたまま最大24ヶ月の運転継続を認める 新たな原発検査制度の来春導入に反対しよう！ 関電の原子炉容器脆化ワースト3に 再稼働NO！

国の新たな検査制度は
原発の原子炉容器や一次系配管・機器に
ひび割れがあっても、電力会社の判断で運転継続を認め、
連続24か月運転も可能にする...!??

しかも...関電は
原子炉容器の脆化が
最も進んだワースト3の
原発3基の60年運転を
目論んでいる！

若狭の原発の再稼働を 許しません



関電は、40年運転ルールを無視して、高浜1・2号、美浜3号を廃炉にせず、60年運転をめざし、約4千億円もかけて工事を進めています。

「原発なしでも電気は余っている！」のに、福島事故を教訓としない原発再稼働なんて許せません。

こんな制度、安全じゃないよ



来年4月から始まろうとしている「新たな検査制度」の問題点

- ① ひび割れ等の劣化が見つかったも、原発を止めなくてよい。次の検査までもつと電力会社が判断すれば、補修しなくてもよい。
- ② 電力会社がひび割れ等の劣化の進展状況を評価して「24か月以上もつ」と判断すれば、24か月間止めずに運転してよい。
- ③ 従来の「定期検査」は廃止し、電力会社が「定期事業者検査」として行い、原子力規制委員会は合否判定せず、報告受領のみ。
- ④ 運転しながらの分解検査等も認め、運転停止期間短縮を認める。

電力会社はもうけを最優先し、運転期間を24か月へ伸ばし、運転停止期間を大幅に短縮し、
原発の設備利用率を90%以上へ引き上げようとしています。
来春から始まろうとしている「新たな検査制度」は、国の責任を放棄し、
電力会社に全責任を転嫁して、もうけ主義を助長する制度です。
一緒に反対の声を上げましょう！

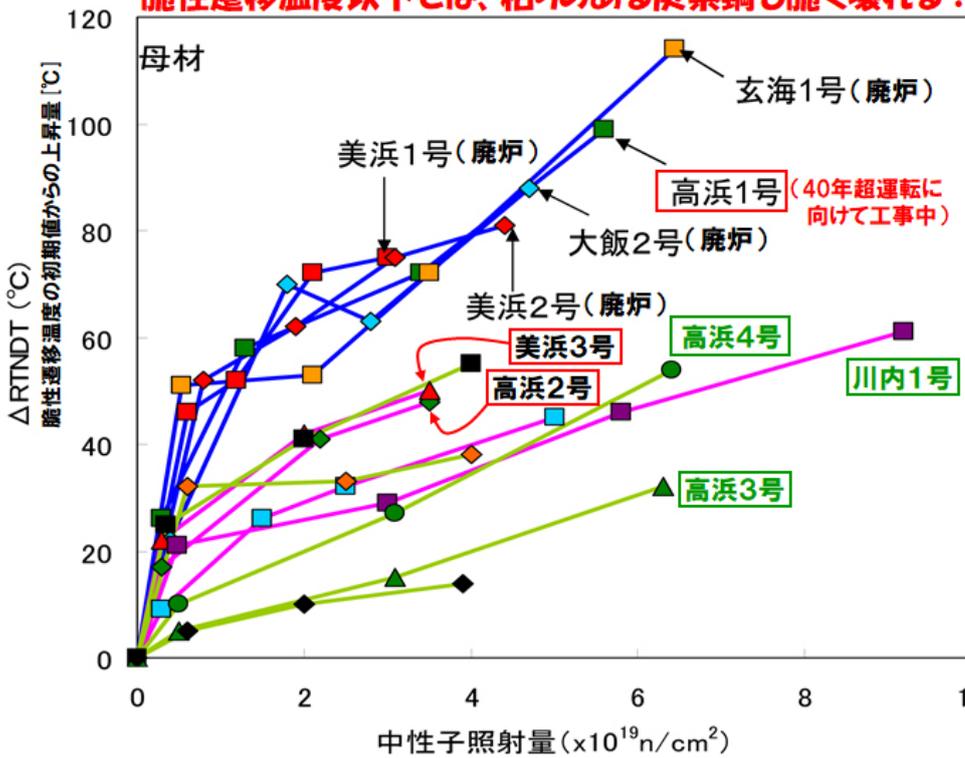
ひび割れが進んだ状態で
直下地震や大地震が起これば、
福島事故が繰り返される！



関電は、高浜原発の基準地震動は700ガルで、「炉心溶融事故に至る973ガルを超えない」「安全だ」と言っていますが、新潟県や熊本県で1,000ガルを超え、2008年岩手・宮城内陸地震で2,000ガル（地表で4,000ガル超）にも達しています。大きな地震は現に起きています。

原子炉破壊の危険ワースト8のうち5基が廃炉、3基が60年運転！？

脆性遷移温度以下では、粘りのある炭素鋼も脆く壊れる！



- 美浜1号 (0.16Cu/0.59Ni)
- 高浜1号 (0.16Cu/0.61Ni)
- ◆ 大飯2号(廃炉) (0.13Cu/0.58Ni)
- ◆ 美浜2号(廃炉) (0.12Cu/0.58Ni)
- 玄海1号(廃炉) (0.12Cu/0.56Ni)
- ◆ 高浜2号 (0.10Cu/0.57Ni)
- ▲ 美浜3号 (0.09Cu/0.55Ni)
- 大飯1号(廃炉) (0.07Cu/0.56Ni)
- 川内1号(再稼働) (0.068Cu/0.59Ni)
- 高浜4号(再稼働) (0.05Cu/0.58Ni)
- 伊方1号 (0.05Cu/0.62Ni)
- ▲ 高浜3号 (0.03Cu/0.57Ni)
- ◆ 玄海2号 (0.03Cu/0.57Ni)
- ◆ 伊方2号 (0.03Cu/0.64Ni)

母材	Cu	Ni	
1	美浜1号	0.16	0.59
1	高浜1号	0.16	0.61
1	大飯2号	0.13	0.58
1	美浜2号	0.12	0.58
1	玄海1号	0.12	0.56
2	高浜2号	0.1	0.57
2	美浜3号	0.09	0.55
2	大飯1号	0.07	0.56
3	川内1号	0.068	0.59
3	高浜4号	0.05	0.58
3	伊方1号	0.05	0.62
3	高浜3号	0.03	0.57
3	玄海2号	0.03	0.57
3	伊方2号	0.03	0.64

青ライン: 0.1 < Cu量
 桃ライン: 0.05 < Cu量 ≤ 0.1
 緑ライン: Cu量 ≤ 0.05

(材料の性質が延性のない状態に変わる温度を「脆性遷移温度」と言います)

原子炉容器脆化ワースト3の「関電の老朽3原発にNO」を！

原子炉容器の本当の脆性遷移温度や脆化の危険性は予測できない！

監視試験片データが本当の状態を示している保証もない！

原子炉容器の脆化度は、監視試験片のデータに基づき、国内予測式で予測していますが、全く信用できません。

右図のように、脆性遷移温度が、玄海1号で約40℃、高浜1号でも20℃も過小評価されていたのです。監視試験片による実測値とはかけ離れています。新たなデータが出るたびに予測式がこころ変わっているのが実状です。

監視試験片は、原子炉容器本体と材質が違っていたり、中性子照射状態が違っていたりするため、本当の脆化度を過小評価している可能性もあります。

原子炉容器は、長期間の運転に伴い、強烈な中性子線を浴びて、材料が鋳物のようになり、脆化が進むのです。高浜1号ではすでに100℃前後でもろくなる状態になっています。事故で緊急炉心冷却装置ECCSが作動して100℃程度に下がると、原子炉容器が破壊され、炉心溶融事故へ至る危険があるのです。この危険の高い国内ワースト8の原発のうち5基は廃炉になりましたが、関電の3基だけが60年運転に向けて工事中です。こんなことが許されてよいのでしょうか。

